

交流体験へ魅力発信

人材掘り起こしカギ



南城市・ツアー報告会

滞在型観光で 活性化策提言

【南城】体験滞在型観光で地域活性化を目指す市の「視察・研修・モニターツアー成果報告会」が三月二十九日、市佐敷のウエルサンピア沖縄で開かれた。パネル討論で、観光客に市の魅力をどう伝えるか、コーディネーターと六人のパネリストが活発に意見交換。地域住民との交流体験や、合併四町村の人材掘り起こしが重要になることを確認した。

旧知念村が二〇〇五年
度から国、県の補助を受
けて進めてきた「日本・
沖縄のルーツが見えるふ
るさと整備事業」で、今
回の報告会は、二カ年事
業の初年度の仕上げ。こ
れまで住民参加のセミナ
ーや視察研修、モニタ
ーツアーなどを通して、観
光プログラムを研究して
きた。

古謝景春市長は「沖縄
の精神文化の基礎をなす
南城市の自然・歴史文化
遺産を、住民参加型で発
信していく」とあいさ
した。

つ。屋比久清正・同事業
検討委員長らが成果報告
を行った。

パネル討論では、事業
に参加した六人が、観光
プログラムの反省や抱負
を報告。久高島振興会の
西銘政秀さんは「合併四
町村の人的ネットワーク
を工夫することが重要
だ」と呼び掛けた。

エコツアー企画者の平
井雅さん(有会社社・南
西マイクロ)は「来た
人に聖地がどういうも
のか伝え、何を持って
帰ってもらうかが一番
難しい」と指摘。長浜
栄子さん(安座真ムーン
ライト・テラス代表)は
「組踊やイノーなど独特
の言い回しを、客が分か
るように説明したい」と
述べた。

これに対しモニターツ
アーに参加した稲葉守利
さんは「客の側にも予備
知識が必要。海ブドウを
使った食事や歌三線に感
銘を受けた」と語った。
堀田満さん(株式会社

仲善)は「斎場御嶽には
豊かな自然がある。自然
保護のプログラムもでき
るのでは」と提案。ケス
ト参加の山城定雄さん
(東村ふるさと振興株式
会社専務)は「共に地域
資源を生かした素晴らしい
プログラムを作ってい
こう」と市民にエールを
送った。
魅力をどう伝えるか、
についても議論。西銘さ
んは「感動」をキーワー
ドに挙げ、堀田さんはゆ
つたりと過ごせる時間」
の大切さを指摘。稲葉さ
んは「食の魅力をもっと
情報発信してほしい」と
要望した。

聖地の息吹感じて

南城市観光モニターツアー



地元在住のガイドとともに史跡を見て回るモニター客ら
＝南城市・知念城跡

ガイドの卵 成果披露

【南城】体験滞在型観光で地域活性化を目指す市の「モニターツアー」が十八、十九日の二日間行われ、地元のガイド養成講習受講生らが、研修の成果を披露した。知念・玉城地区を中心に、従来の観光コースとはひと味

違うエコツアーを企画。参加した観光客から「沖縄の信仰や自然との結びつきが理解できた」と評価の声がある一方、「南部の隠れた魅力をもっと本土に発信してほしい」との要望が出された。

モニターツアーは、旧

知念村が二〇〇五年度に国、県の補助を受けた「日本・沖縄のルーツが見えるふるさと整備事業」の一環。これまでワークシヨップや視察研修などを通して、観光客の受け入れ態勢やメニューを研究してきた。

「琉球の聖地を巡る心の旅」と題した今回のツアーには、本島在住の県外出身者ら十人が参加。初日の十八日は、小型バスで移動しながら、斎場御嶽や知念城跡、受水走水などの聖地をゆっくりと歩いて見て回

った。聖地巡拝の様子の説明や、地元のお年寄りとの交流など、独創的なプログラムが組まれた。森でリユウキユウアマガエルの鳴き声を聞き、フクギの大木に手を触れるなどして、自然の豊かさも学んだ。宿泊先のホテルでは、海辺での「毛あしび」

を楽しんだ。

妻の美代子さん(五七)と参加した稲葉守利さん(五七)は「団体旅行とは違う出会いがあり、とても楽しかった。沖縄の信仰を勉強するいい機会になった」と評価。「滞在型の旅行は今後さらにニーズが高まる。南部のディープな情報をもっと発信してほしい」と要望した。

知念城跡をガイドした具志堅美千代さん(四七)は「グスタと、御嶽との意味付けを心掛けて案内した。次は動植物も関連付けてエコツアーの内容を深めていきたい」と意欲

を見せた。市観光・文化振興課は二十九日、ウエルサン

ピア沖縄(佐敷)で事業の成果報告を行う予定だ。

だ。